

早稲田大学 人間科学学術院 人間科学会 諸費用補助成果報告書 (Web 公開用)

申請者 (ふりがな)	新谷 里々花 (しんがい りりか)
所属・資格 (※学生は課程・学年を記載。卒業生・修了生は卒業・修了年月も記載)	人間科学研究科 修士課程 2 年
発表年月 または事業開催年月	2023 年 9 月
発表学会・大会 または事業名・開催場所	2023 年度日本建築学会大会 (近畿)
発表者 (※学会発表の場合のみ記載、共同発表者の氏名も記載すること)	新谷里々花 佐野友紀
発表題目 (※学会発表の場合のみ記載)	空間-時間系歩行軌跡モデルを用いた来館者の単独鑑賞行動パターンの分析
発表の概要と成果 (抄録を公開している URL がある場合、「概要・成果」を記載した上で、URL を末尾に記してください。また、抄録 PDF は別途ご提出ください。なお、抄録 PDF は Web 上には公開されません。)	
<p>【研究背景】</p> <p>博物館の展示空間における鑑賞者の行動に関する研究は今までに多く行われてきた。しかし、それらの調査手法は鑑賞者を追跡してプロットする方法であり、鑑賞者の行動を正確に分析することが困難であった。そこで、今回の調査では展示空間を映像撮影し、鑑賞者の位置座標データを取得することにより、鑑賞行動を分析することを目的とする。さらに、今回の分析では他者の影響を受けない状態の単独鑑賞者を対象に分析を行なった。単独鑑賞者を分析することで、他者の影響を受けない基礎的な鑑賞行動を把握することを目的とする。展示空間における鑑賞行動を分析することにより、人間工学に基づいた展示空間の設計に寄与できると考えられる。</p> <p>【方法】</p> <p>2022 年 10 月に早稲田大学にある會津八一記念博物館において調査を行い、A 展示室に高解像度カメラを設置し、開館から閉館まで (10~17 時) 展示室内全体を撮影した。撮影した映像データから、鑑賞者の時系列位置座標を 0.5 秒ごとに抽出し、座標変換を通して各鑑賞者の実空間上の 2 次元座標データを時系列データとして取得した。</p> <p>【結果・まとめ】</p> <p>博物館の展示空間において映像撮影データをもとに鑑賞行動を定量的に分析した。単独鑑賞者を分析対象とすることで、他の鑑賞者の影響を受けない単純な鑑賞行動を把握することができた。鑑賞行動は「停止鑑賞」「歩行移動」「歩行鑑賞」という行為により構成される。これらの行為および停止鑑賞の有無、時間、経路もとに、鑑賞スタイルを 4 分類することができた。</p>	

※無断転載禁止